

大阪府立図書館の活動評価 ～令和6年度のまとめ～

活動評価の第五期にあたる今期は、令和5年度から7年度までの3年間を評価期間と位置づけ、府立図書館の5つの基本方針を横断する2つの「重点事業」と、それぞれの基本方針に沿った「基本事業」を設定し、取組みを進めています。6年度は、前年度に行った図書館情報システムの更新を受け、新たなサービスを提供開始することができました。

重点事業・基本事業の総括は次のとおりです。具体的な取り組み内容や目標値の達成度については各シートをご確認ください。また、より詳細な統計等については、「基礎指標」をご参照ください。

重点事業 1

すべての府民が図書館サービスを楽しむ環境の整備 ～図書館利用に配慮が必要な府民への読書活動支援～

1 活字による読書や来館が困難な利用者、日本語を母語としない利用者への多様なサービス提供

(i) デイジー図書は、目標としていた件数以上を作成することができました。「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界」では、参加者が多様な方法による読書体験を通じて読書のバリアフリーについての理解を深め、その後開催した点字教室への参加に繋げることができました。引き続き工夫をして実施し、職員もさらなる機器取扱の習熟に取り組んでいきます。

(ii) 5年度に実施した府域市町村図書館へのアンケート結果を踏まえ、ネパール語の特別貸出図書セットを作成しました。

2 障がいのある子どもへの支援

支援学校へのおはなし会は、さまざまな年齢層へ複数回を実施できました。手話を使ったおはなし会「楽しい手話」は、初めての参加者の反応もよく、7年度も継続して実施します。館内での手話研修は、3段階でのレベル別で実施しています。研修生による「手話でたのしくおはなし会」も実施できました。引き続き継続のための取り組みを進めていきます。

3 市町村立図書館向けの研修実施、情報提供

「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界」は、府域の市立図書館でも同様のイベントが実施されました。前年から継続の1自治体と新規に1自治体です。府立図書館での取り組みがモデルケースとなり、市立図書館でも活用できた事例です。さらに情報提供、共有を進めていきたいと考えます。



【ネパール語の特別貸出図書セット】



【見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界】

1 デジタルコンテンツの拡充

中之島図書館独自の所蔵資料のデジタル化のほか、国文学研究資料館のプロジェクト「データ駆動による課題解決型人文学の創成プロジェクト」に引き続き協力しています。昨年度データ提供した資料は今年度末に公開され、7年度デジタル化する資料の準備も行いました。また、国際児童文学館が所蔵する資料では、他館に所蔵のない明治から昭和初期の雑誌をターゲットに据え、目次データの追加に加え、「国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業」に画像データの提供を開始しました。令和8年9月には送信サービスで閲覧可能になる予定です。7年度も続けて資料利用の利便性の向上に尽力していきたいと考えています。

2 デジタルコンテンツの認知度の向上

中之島図書館特別展「貴重書のみどころ」では、展示資料から「おおさかeコレクション」へ誘導する工夫をしたほか、行列絵図『崎陽諏方明神祭祀図』の動画を作成し会場内で上映しました(大阪府立図書館公式YouTube チャンネルでも公開)。アンケートでもデジタル画像で内容を確認できたのが良かったと好評でした。昨年度「デジタル展示」で一部紹介した織田作之助の草稿を「おおさかeコレクション」の新規カテゴリとして公開しました。中央図書館ではオープンアクセス資料の紹介を中心にを行いました。今後も引き続き図書館ホームページ上で利用可能な便利なコンテンツの紹介に努めてまいります。

3 資料および情報への多様なアクセス手段の確保と利便性の向上

オンライン利用登録は、実現に向けて実装した機能をもとに具体的な運用を詰め、令和7年1月に試行として開始し、3月末までの3か月で約300件の申請がありました。今後、利用者からのニーズを踏まえて、7年度は申込の分析を行った上で、本格実施の予定です。



【新規収集万博関連資料(おおさか e コレクション)】



【「国立国会図書館未収かつ入手困難資料のデータ収集事業」に提供した画像データ】



【19世紀薬用植物の世界(おおさか e コレクション)】



【オンライン利用登録 試行実施の広報画面 (ホームページの案内)】

基本事業

基本方針 1

府立図書館は、市町村立図書館を支援し、大阪府全域の図書館サービスを一層充実させます。



基本事業 1

府域図書館情報ネットワークの活性化

図書館関連の情報をとりまとめた府域市町村図書館に向けて毎週発信している「OPL ニュース・ピックアップ」は、3月に通算 300 号に到達しました。大阪府域図書館グループウェアの活用では、府立図書館からの情報発信に加え、掲示板「みんなの質問箱」を活用した市町村図書館間の情報共有が見られました。

基本方針 2

府立図書館は、幅広い資料の収集・保存に努め、すべての府民が正確な情報・知識を得られるようサポートします。



基本事業 2

レファレンスサービスの拡充と、所蔵資料を活用できる司書の育成

資料展示は、東海道線大阪神戸間開業 150 年と東海道新幹線開業 50 年を記念した「東海道・鉄道・新幹線」をはじめ、作家では佐藤春夫、江戸川乱歩、ハン・ガン、エドワード・ゴーリーら、亡くなられた著名人に関する資料を展示する「追悼」シリーズでは、西田敏行、楳図かずお、谷川俊太郎らを取り上げ、多様な所蔵資料を紹介しました。こども資料室では、季節の行事や記念日に合わせたテーマで 1 日単位から数か月単位と期間も様々に違えて常にある本があることに、興味を持てるよう努めました。また、書架から本を選ぶ楽しみのきっかけとなるようクイズイベントでのヒントを書架に隠すなど工夫をこらしました。

レファレンス研修は、国立国会図書館主催研修などに参加し、館内での伝達研修により全体的なスキル向上に努めました。

基本方針 3

府立図書館は、府域の子どもが豊かに育つ読書環境づくりを進めるとともに、国際児童文学館の機能充実・資料の利用促進に努めます。



基本事業 3

- ・ 広域自治体の視点から学校等に対する支援を拡充し、府域の子どもの読書活動を推進
- ・ 国際児童文学館資料の利用促進

司書教諭および・学校司書、担当者を対象とした研修のほか、高校生のための図書館講座「LibCo(りぶこ)」は5校で実施し、スクールサービスデイ以外にも探究学習利用にも対応しました。

国際児童文学館の利用方法や複写の混雑状況等をホームページや X(旧ツイッター)で案内するなど、利用についての広報内容を工夫しました。

基本方針 4

府立図書館は、大阪の歴史と知の蓄積を確実に未来に伝えます。



基本事業 4

地域資料の収集・保存と利活用

万博に携わる企業・団体向けに寄贈を呼びかけるサイトを作成したほか、個別にパビリオン主催団体等に依頼して、図書、雑誌、ポスターやリーフレット等合計125点を収受しました。7年度は、万博の開催年であり、さらに働きかけていくこととします。

基本方針 5

府立図書館は、府民に開かれた図書館として、地域の魅力に出会う「場」と機会を提供します。



基本事業 5

府民の生涯学習、地域の情報拠点として地域の発展にも貢献し得るような様々な事業を展開

中之島図書館では、継続実施しているビジネスセミナー等のほか、日本政策金融公庫と連携した起業セミナーや、府内の行政書士法人与自然と連携した起業相談会など、起業にフォーカスした催しを開催しました。また、将棋に造詣の深い藤澤桓夫の特別展では、将棋の町高槻との連携も行いました。

中央図書館では、連続講演会を前期・後期と実施、展示等を開催しました。イベント開催に際しては、X(旧ツイッター)やメールマガジン、ホームページでも広報したほか、連携先の SNS 等での広報も協力いただきました。



【中央図書館企画展示「東海道・鉄道・新幹線」展示風景】

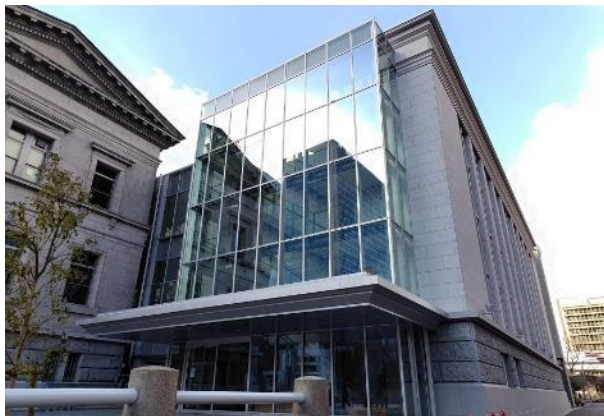
その他



【中之島図書館特別展「貴重書のみどころ」資料画像】

中之島図書館では、書庫の耐震建替工事完了に伴い外部書庫等に移転していた資料をすべて戻し、令和 6 年11月には新書庫からの出納を開始しました。また、令和 7 年 2 月には書庫以外の部分(渡り廊下・エレベータ等)の供用を開始しました。これにより、利用者用のエレベーターが無いという長年の課題が解消され、車いすやベビーカー等の本館 2 階、3階への移動がスムーズにできるようになりました。

中央図書館では、書庫狭隘にともなう書庫増設工事が完了し、地下 2 階に書架を設置するとともに、地下 1 階の一部を固定書架から集密書架に変更しました。また、一部を残して駐車場は地上に移動しています。さらに、開館以後29年間使用し、老朽化が著しかった館内の閲覧椅子等について、一部を民間企業からの寄贈も活用しつつ、すべてリニューアルすることができました。このうち、大人用の椅子の一部は座面の高さが調節できるものに変更し、より快適な読書や調査ができるようになりました。



【中之島図書館 書庫棟】



【中央図書館 地下2階 書庫】



【中央図書館 新しく民間企業から子ども資料室にご寄贈いただいた椅子】



【中央図書館 新しく民間企業からご寄贈いただいた閲覧椅子】